









## 平成23年度「地域力創造のための起業者定住促進モデル事業」外部専門家の紹介

No.	外部専門家	所在地	主な取組・実績
1	 <p>今村 まゆみ (街づくりカウンセラー)</p>	東京都 世田谷区	<p><b>マスコミも来訪者もファンになる街づくり</b>                      フリーランスの「街づくりカウンセラー」として各地で地域アドバイザーや講演・ワークショップを行っている。2006年から3年間、東京都派遣スーパーバイザーとして「青梅・奥多摩広域観光まちづくり事業」に携わり、青梅・奥多摩地区を「東京都の意外なヒーリングスポット」と位置付け、旅行会社やマスコミ向けのPR活動によりメディアへの露出を増やした。                      愛知県渥美商工会の「渥美の貝づくし事業」ではアドバイザーとして活動し、年間を通して豊富に獲れる貝を地元の地域資源とし、飲食店や宿泊施設が「貝づくしの店」として連携することを支援した。また、作る家庭が少なくなっていた地元の家庭料理「あさりの押し寿司」を受け継ぎ、全国に広げるための商品開発にも取り組んだ。</p>
2	 <p>石塚 雅明 (株式会社石塚計画デザイン事務所 代表取締役)</p>	北海道 札幌市	<p><b>まちづくりワークショップ等による地域合意の形成や住民自治の推進</b>                      地域から通過交通を排除した「人に優しい道づくり」では、地域合意形成を得るために地域住民による検討組織と協働して多様な取組みを行った。まちなか再生の地域拠点「まちづくりハウス」は、商店街の空き店舗を活用して地域の居場所づくりやネットワーク形成の場づくりに取り組んだもので、地域住民主体の継続的運営が続いている。また、大規模市民・住民議論の場づくりとして、参加者千人規模のワークショップの企画・運営を行い、市民のまちづくりへの関心を高めたり、課題解決のための具体的行動を引き出すのに大きな効果を上げている。</p>
3	 <p>小林 詳子 (全日本空輸株式会社)</p>	東京都 港区	<p><b>宇和島市における真珠を核としたブランド化による中心市街地活性化、女性の視点と感性を活かしたまちづくり</b>                      宇和島市の特産品である真珠を核としたブランド化による中心市街地活性化をテーマに、女性の視点と感性を生かした「まちづくり女性会議」を主宰した。「まちづくり女性会議」は、ただ単に提言するだけではなく、自らも行動していく実働部隊「まちづくりBeppin塾」に発展し、年4回の「まちづくり通信Vif」の発行、「海の恋人まつり」でのファッションショー、パール婚式、パール王子コンテスト、メンバーが執筆した「契島伝説」の販売等の活動を行ってきた。「契島伝説」は2011年11月に市民ミュージカルとして上演されることとなっている。</p>
4	 <p>高橋 寛治 (高野山大学客員教授)</p>	和歌山県 高野町	<p><b>小規模再開発の連鎖による地方都市再生モデルの構築、地域の内発力を引き出すまちづくり</b>                      飯田市の中心市街地再生では、住民と行政が一体となって小規模再開発を連鎖させ、地方都市再生のモデル(飯田方式)の礎を組み立てた。また、都市と農村の交流における受入システムを構築し、年間3万人の中高生を受け入れている。高野町では独自性を持った景観整備や、日本で最も早く集落支援の実現を図る内発的発展のモデルとしてのまちづくりを指導してきた。</p>

## 平成23年度「地域力創造のための起業者定住促進モデル事業」外部専門家の紹介

No.	外部専門家	所在地	主な取組・実績
5	 <p>千田 良仁 (株式会社アマタ持続可能経済研究所 アソシエイト・フェロー)</p>	東京都千代田区	<p><b>「つなぐ」「つむぐ」～地域資源の発掘・利活用とヒト・モノ・カネのコーディネートによる持続可能な地域活性化モデルの構築</b>                  地域に眠っている地域資源を「専門家」や「余所者(よそもの)」の視点で発掘・可視化し、地域資源を地域内外のヒト・モノ・カネとコーディネートすることによって、地域に「生業(なりわい)」を創出し、内発型の持続可能な地域活性化を支援している。                  甲賀市の「都市農村交流推進事業」では、グリーンツーリズムを始めとする都市農山村交流ビジネスの構築を支援、高島市の「シカ肉の流通事業化支援事業」では、品質や管理方法の検討・販路開拓・メディアを通じた情報発信などを支援している。</p>
6	 <p>斉藤 俊幸 (株式会社イング総合計画 代表取締役)</p>	東京都杉並区	<p><b>食づくり、酒づくりの雇用創出、地域再生</b>                  荒尾市地域再生マネージャーとして農林水産課地域再生係に赴任。商店街に住み、約2年半地域再生事業に取り組む。高齢者が孤立している地域に「徒歩圏内マーケット」を設立し、市内各地に多店舗展開(3店舗)を図った。地域にお金が落ちる仕組みを構築し、連携組織を活用したやる気のある担い手育成を図ったことで、年間売り上げは1億円近くにまでなっている。また、熊本県宇城市の地域再生マネージャーとして活動したほか、平成21年度は地域力創造アドバイザーとして高知県土佐市で『土佐市いいものブランド化支援』に取り組んだ。</p>
7	 <p>中島 淳 (株式会社カルチャーアットフォーシーズンズ 代表取締役)</p>	東京都港区	<p><b>思いや考えをカタチに</b>                  全国各地で特産品開発や観光交流の推進に従事し、地域の取組をビジネスモデルとして確立するプロジェクトをプロデュースしている。具体的には、会津方面でのプロジェクトで各鉄道及びバスの2日間乗り放題切符の企画・商品化(2002年)、遠野市にて人材育成を目的に「東北ツーリズム大学」の開設(2003年)、都内空き店舗を利用した山形県遊佐町の東京アンテナショップ開設(2007年)、和歌山県紀の川市の地域力創造アドバイザー(2008年度)等、様々な取組を実施している。</p>
8	 <p>養父 信夫 (株式会社マインドシェア 九州のムラへ行こう編集長)</p>	福岡県福岡市	<p><b>マチとムラの交流＝ツーリズムによる地域活性</b>                  主に九州各地でツーリズム啓蒙のための講演・勉強会を各地で開催し、先進事例の報告を行っているほか、ツーリズム推進のための組織や計画づくり、受入形態の指導や商品化など、ツーリズムによる地域づくり全般を支援している。                  単に生きがいづくりのボランティア的な取組に終わることなく、地域の経済基盤を作るために第一次産業者、二次加工業者、三次サービス事業者との連携及び都市部で二次加工、三次産業を営む民間企業との連携を積極的に展開する取組を行っている。</p>